

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371300860
法人名	有限会社 サンクチュアリ
事業所名	グループホーム 樹樹
訪問調査日	平成21年1月9日
評価確定日	平成21年2月6日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300860
法人名	有限会社 サンクチュアリ
事業所名	グループホーム 樹樹
所在地	名古屋市守山区金屋二丁目250-2 (電話) 052-758-0070

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年2月6日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年12月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 13人, 非常勤 6人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	64 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	上飯田第一総合病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、建物の南側に居室が並び日当りの良い中で入居者は体を休めたり、趣味などでゆったりと日々を過ごしている。ホールや洗面所には入居者の生け花が飾られていた。職員は常に入居者に笑顔で接しており、入居者も笑顔で応えている。入居者同士も仲が良く配膳や食事の折にも声をかけ合い、動きの遅い入居者の世話をしている様子が見られた。オーナーは職員として拘わっておりケアをしたり食事を共にしながら入居者と会話を楽しんでいた。これらから理念の「あたたかく尊ぶ」がうかがえた。ホームの研修への取り組みも熱心で職員は積極的に参加している。家族アンケートの記述から「代表者や職員は皆明るく、優しく対応してくれるので安心。訪問しやすい」等の声が多い。職員からは「笑顔に溢れている」「研修にしっかり取り組んでくれる」「オーナーは話をよく聞いてくれる」「対応がうまくいかない時は皆で注意してくれる」「これからも地域に馴染んだホームにしていきたい」などホームについての思いを話された。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	馴染みながら利用するためにおためし入居を実施し、実際に体験され入居の可否が判断された。災害対策では食飲料の期限を確認し新しいものに取り替えている。同業者との交流は一般職員も出席し交流の機会を得ている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から自己評価の捉え方など説明があり、職員もホームの課題について考えた。実施されていない項目について力を入れようと考えているが、職員の人数や入居者のADL低下から思うようにならない現状を感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーから運営推進会議の開催を2カ月に1度では多すぎるとの意見があり、3カ月に1度の開催にした。出席率が低いので、参加者が増えるよう会議の重要性について話したり、家族、地域住民、医師等メンバーから意見を聞きたいなど会議のあり方やガイドヘルパー等の外部の資源を利用して刺激のある生活をして欲しいなどの話し合いがされた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎年家族に苦情受付表を渡しており、玄関に投書箱を置いている。実際には、面会の折や運営推進会議で意見など出される。家族からの意見は職員で改善に向けて話し合い、結果は家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者と職員がホームの周辺の掃除をし、地域との連携に取り組んでいる。町内会に加入して盆踊りや夏祭り、秋祭りに参加している。町内会長から行事に声かけしていただき参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かく尊ぶ」を理念とし職員皆で考えつくりあげた。日々の言葉遣いに気をつけ、笑顔を絶やさず入居者に接するよう努めている。また、職員だけで動かず入居者と一緒に動き、お互いに尊重し合い生活していくことを目指している。		運営方針には「ホームと家庭と地域の結びつきを大切にします」とあるが、理念の中にも地域密着型としての役割を反映した内容を加えられることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールに掲げてあり、朝夕の申し送り時に唱和している。職員は唱和することで心がまえができ、理念に沿った介護ができると意識している。日々、入居者と穏やかに接して笑顔の見える場面づくりに心がけている。理念の実践に向け、入居者の状態が不安定な時や職員の対応についてミーティング時に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊りや夏祭り、秋祭りに参加している。町内会長より行事への参加の声かけをしてもらうこともある。週に1回入居者と一緒にホームの周囲を掃除して、地域の方と交流する機会をつくっている。いろいろなボランティアが定期的に訪問しており、入居者の楽しみとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価するに当たって、管理者から捉え方、書き方など説明があり、セルフチェックしながら各自でホームの課題を考えてもらうようにした。職員は実施されていないところに力を入れようと考えてみたが、人員不足や入居者のADL低下により、思うようにならない点を感じた。排泄の際のプライバシーはミーティングで話し合い改善された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは町内会長、協力医師、近隣施設の職員、ボランティア、入居者家族、ホーム代表者及び管理者である。議題は活動、行事報告、利用者状況、職員状況などで先回は運営推進会議のあり方、地域密着型サービスについて話し合った。前回の外部評価の報告も行った。メンバーからは運営推進会議の回数や樹樹の活動内容、利用者の思いを知りたい等意見が出た。</p>		<p>メンバーからの意見で運営推進会議の開催が3カ月に1度になったが、それでも参加者は少ない。会議に関心を持って参加してもらえるよう積極的に呼びかけることの工夫を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所へは手続き等の用事がある時、訪問することはあるが、事業所からの運営や実状など情報提供は積極的に行なっていない。</p>		<p>区役所に用事がある時などにもホームの実状を伝えたり、運営推進会議の報告やホーム便りなどを渡し、ホームを理解してもらい相談や支援が得られる関係をつくっていかれることが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホームの生活の様子を載せた「樹樹だより」に、担当職員からの手紙を添え、小遣い帳のコピー、残高を共に家族へ送っている。面会によくみえる家族にはその都度、日頃の様子を報告している。何らかの変化があったり、問題が起きた時は電話で連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に苦情受付表を渡してあり、玄関に投書箱を設置している。家族会が年に3回あり、ホームの取り組み等意見をもらい話し合っている。面会の折にも意見を出される。家族からの意見は改善に向けて話し合い結果は家族に報告している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は事情によりフロアを異動することもあるが、おおむね固定されている。職員が離職する場合、報告は各自に任せている。運営推進会議では報告しているが、ダメージを与えないよう入居者には常に報告はしていない。新しい職員は慣れた職員について日勤、夜勤と学んでいる。レポートを出してもらい管理者と話しをする機会を設けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は勤務扱いで勤務の時間帯と合わせたシステムで職員は積極的に受講している。レポートを事務室に貼り、後の研修報告会で報告し、皆で学び共有している。フロア会議の中でも研修会を全員参加で実施することもあり、救急車の対応など学んだ。消防署による救急救命の講習を予定している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市認知症グループホーム協議会に管理者や職員が出席しており、同業者と交流する機会を持ち、情報交換をしている。管理者が知り合いの施設と意見交換する機会を持っているが、職員同士でも見学し合い、連携をとっていくことも考えている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得した上で入居できるようおためし入居を勧めている。職員も本人の様子をみることが出来る。体験されない場合は、管理者、計画作成担当者、フロア主任の3人で自宅訪問し、本人の状況や寝室、トイレの様子をみて参考にしている。入院している人には病院へ行き表情や状況をみてる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者を「ファミリー」と呼び家族と考え、様々な場面を共に過ごしている。入居者の得意な分野には役割を持ってもらい、いろいろなことを共に行い一緒に生活していることを意識してもらっている。悩みや不安も察するよう努め、個別に話を聞いている。得意なマッサージをしてくれたり、疲れを癒す言葉で入居者からは元気をもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示がしっかりできる人もいるが思いを伝えられない人は家族から話を聞いたり、表情から感じ取って職員の一人よがりにならないよう把握に努めている。茶話会で昔の話や生活歴など回想していただいている。生活歴の中で輝いていた頃の話聞き、共に喜ぶこともある。聞いた話はミーティングや申し送りで伝え、職員は共有している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は担当職員がアセスメントし、個人情報等を作成している。入居者の生活状況や問題点を記録している。管理者、担当職員と話し合っって計画作成担当者が作成している。家族には来訪時、要望を聞いたり説明をしている。また、郵送するなどして同意書に署名捺印してもらっている。同意書に意向を書く欄も設けられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは6カ月としている。担当職員が入居者の状態、状況の変化などを月1回のミーティングで話し合っている。家族や本人の要望に応じて随時見直しを行っている。新しく作成した介護計画は個人記録に付けて、朝夕の申し送りで確認されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションと24時間連携していて、ホームの看護師が週1回バイタルチェック、医療相談を支援している。訪問マッサージは月2回家族、入居者の要望がある方を医師の受診後受けている。歯科は往診週1回受けていて、口腔ケアに努めている。眼科は月1回、職員が同行しタクシーを使用している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の内科医は月2回往診、健康診断、インフルエンザ予防接種も受けている。家族の要望で受診する場合は家族に通院をお願いしている。受診後、家族より医師からの情報や投薬について担当職員が聞いて記録し、申し送り時に確認している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームでは重度化した場合の指針が作成されている。心身の状態、状況を見守りながら家族とも話し合って協力医療機関と専門医療機関、訪問看護センターと連携を保ち、管理者、担当職員と話し合ってミーティングで終末期の看取りに気持ちを一つにして支援していく方針を共有して対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報記載された記録は鍵付きロッカーに保管している。日常の記録はできるだけ入居者の目に触れない場所で行なっている。プライバシーの配慮として、訪問時に入居者の居室に入る際、声をかけて入室する職員の姿が見られた。職員は食事介助やトイレ誘導もさりげなく笑顔で入居者に対応している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々、のんびりゆったり個々のペースで臨機応変に過ごしていただくよう支援している。担当職員が気づきをまとめ、職員は皆、情報を共有している。物事に対して拒否を示す入居者には、職員は無理強いをせず、本人の精神的負担にならないよう配慮してかかわっている。起床、就寝時間は決めていないが皆同じ時間帯になっている。夜眠れない人には眠くなるまで話をし対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は職員と一緒に調理や後片付けをしたり、入居者同士で誘い合っって一連の作業を行い、習慣のようになっている。季節の料理、餅つき、手作りおやつなどでは、職員が入居者から教えられることもある。食事中はテレビを消してゆっくりと食べながら会話を楽しんでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・木以外の午後2時～6時としている。入浴の順番は毎日変わって、居間に名札が掲げられてある。不穩になる入居者には、職員2名で話をしたりしながら支援している。水虫予防のため、足拭きマットは一人ひとり交換している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の野菜作り、花の手入れ、居間の生け花を生ける、大正琴を弾いて皆で歌ったりするなど、一人ひとりできることを支援している。日常の生活では、洗濯干し、取り入れ、たたみ、掃除をすることなど、できることを見守りながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かける時に喫茶店に寄ったり、スーパーで買い物をしたりと地域住民とのふれあいもある。行事の初詣、花見、紅葉見物など季節に応じた外出には弁当を持参することもある。今年は1泊のキャンプも予定している。担当職員とスーパー銭湯へ出かけた入居者もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは自動式になっていて、日中は施錠されていない。廊下入り口にチャイムを設置し、見守りながら支援している。帰宅願望が強い入居者には職員と一緒に寄り添って散歩しながら対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力指導を受け年1回、火災訓練を行なっている。災害時の備蓄をして飲料、食料、介護用品は倉庫内にヘルメットと共に備えてある。各居室に飲水、乾パンが備えてある(非常持ち出し)防災頭巾は居間の椅子にかけてある。		消防署の協力を得て行なった火災訓練に地域の方も参加してもらえよう、回覧で案内するなど、協力を呼びかける取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は職員が栄養士のアドバイスを受けたカロリー計算されたものを参考にして作成している。週5回、新鮮な食材を業者が入れている。入居者の状態に合わせて摂取量を確認している。水分量は食事、おやつ、常時備えてあるお茶などで1日の補給量として1,5は摂っている。月1回体重測定して、健康管理に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に入居者の手入れした花鉢が並べてある。畑の周りに長椅子が置かれ、休める場所になっている。訪問時には、居間に松飾りや鏡餅も置かれ、新年の雰囲気溢れていた。入居者に訪問者がある場合は、居室で話をしたり、リビングでお茶を飲みながら他の入居者と一緒に談話を楽しんだりしている。居間に続いた広いベランダでは、ティータイムを楽しんだり、バーベキューをすることもある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全部南向きにあって、カーテンを通して柔らかい陽が入ってくる。入り口には入居者が分かりやすいように顔写真付き手作りの表札がかけられている居室もある。ベッド、テレビは備え付けになっている。家族の写真、作品の人形、馴染みの家具、大正琴、仏壇も置かれてあって、いやされる工夫がされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。